

学術フォーラム「国際基礎科学年～持続可能な世界のために」

2022年7月29日(金)12:30～17:55

共感と ヒトという生き物の謎 そして社会の仕組み

南山大学経済学部
小林佳世子

私自身の背景

問題意識

今日のテーマ

自己紹介



小林佳世子(こばやし かよこ)

埼玉県立浦和第一女子高等学校卒
東京女子大学文理学部社会学科卒
東京大学大学院 経済学研究科
ペンシルバニア大学留学
南山大学経済学部 講師から准教授(現在に至る)
三児の母

心理学・認知科学との境目:(進化からみた)ヒトの意思決定

経済学: 行動経済学・応用ゲーム理論・
法と経済学・進化心理学

「ヒトが幸せに生きていける
社会の仕組みとは？」

伝統的経済学の前提:

- => **エコノ**(合理的経済人)
- => 「損得で動く」(「合理的」)人間

ヒトは実際にはどんな行動をとるのか？

数百の実験



ヒトの意思決定の
根底にあるものとは？

ヒトはなぜ、
「予想通りに
不合理か？」

最近ハマっているもの...

「進撃の巨人」(アニメ・漫画)
壁の中に住む人類が、突然、壁の外の
「巨人」から襲われ、仲間と共に戦う

* よくある単純な「戦いモノ」にも見えるが、
全く違い、とても深い『意思決定の物語』



「©諫山創「進撃の巨人」(講談社刊)」



「©諫山創「進撃の巨人」(講談社刊)」

登場人物の一人: 巨人(敵)の研究者
夢中になると周りが全く見えない(私に似ている...)

「あなたに、人の心はありますか!？」



「©諫山創「進撃の巨人」(講談社刊)」

「ヒトの心!？」

1つの(多かった)答え

「共感」

ヒトが幸せに生きていける社会の仕組みを考えるには？

「共感」からみた
「ヒトという生き物」

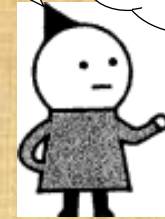
2021. 6. 23出版(日本評論社)

第64回(2021年) 日経・経済図書文化賞受賞

共感 (empathy) とは

痛そう!!

他者の痛みや苦しみを「共に感じる」



痛み



がけっぶちの上に立っている人を見る → ドキドキする
ハサミで手を切るところを見る → 「うわ、痛そう!!」と感じる

共感 (empathy) ～ 定義

「他の人が感じていることを同じように感じること」

ドイツ語のEinfühlung(なかで感じること)から、
20世紀初頭に英語に訳された言葉(芸術用語)

「われわれは、(他者の)体の中に入り込み、
ある程度その人と同じ人物になる」

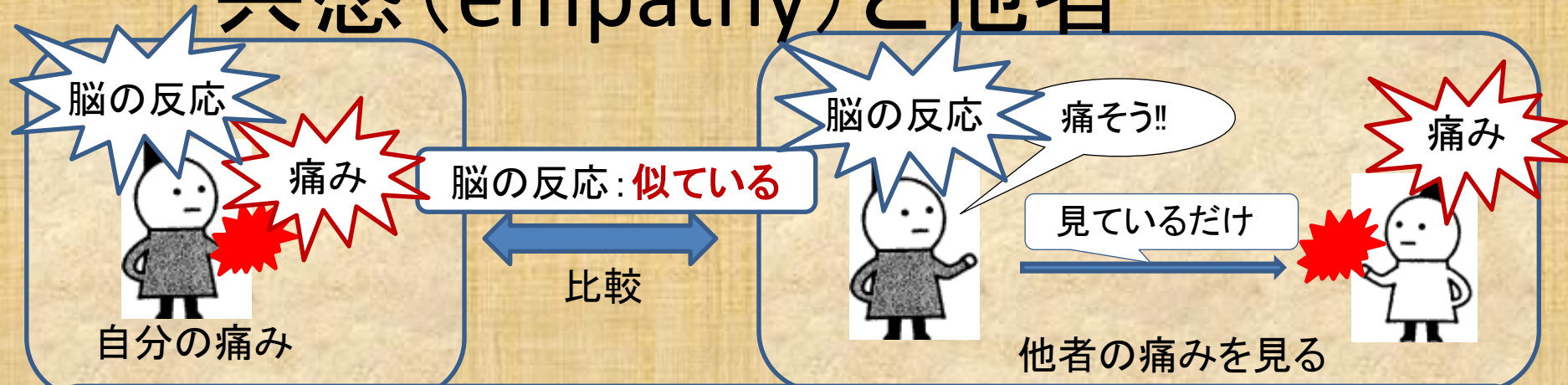
by アダム・スミス 『道徳感情論』 1759年

「経済学の父」 ～ 「(神の)見えざる手」

「各自が自分の利益だけを追求していても、
市場メカニズムのおかげで、全体がうまくいく！」

⇒ 利己主義の旗振り役？

共感 (empathy) と他者



自分の身体的痛み ≡ 他者の身体的痛み(を見る)

(島皮質前部(AI)・帯状皮質前部(ACC)など)

痛みの状況 直接(ピンで刺される、叩かれる、熱をあてられる)

間接(痛そうな写真、痛みに歪む表情、痛みについての文章)

(Singer et al. 2004、Lamm et al. 2011、Bloom 2016、Fallon et al. 2020)

子供や赤ちゃんでも...

子供 (Decety & Michalska 2010)

幼児・赤ちゃん (Sagi & Hoffmann 1976、Dondi et al. 1999、Bloom 2016)

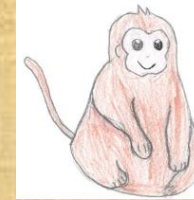
誰かの痛みは
我が痛み

**「私たちの脳は他者とつながり、
彼らの痛みや快楽を経験するようにできている」**

by deWaal 2013 4

動物の共感

- 隣り合ったオリ
自分が食べ物をとると、隣の仲間に電気ショック



痛み

↓
エサをとらない

ラット (Church 1959)

サル (Masserman *et al.* 1964)

ハト (Watanabe & Ono 1986)

*サル：最高12日も食事をとらなかった

- ラット：他者を傷つけることを嫌がる
(Hernandez-Lallement *et al.* 2020)

動物 (レビュー: de Waal 2019)

(例) ラット 痛みの共感 (Langford *et al.* 2006, Carrillo *et al.* 2019)

慰め行動 (Burkett *et al.* 2016)

・援助行動 (Bartal *et al.* 2011)

(例) イヌ・ハト

他者の苦しみを自分のもののように感じとる共感

「げっ歯類から霊長類まですべての哺乳動物に共通する特徴」

「苦悩への感受性は太古から続くシステム」 (by Scott 2011)

(by de Waal 2014)

- ・ **共感**は「**社会的本能**のなかでも最も重要な要素の一つ」
- ・ 共感を含めた社会的本能は、「もともとは**自然淘汰**によって獲得されたものであることは間違いない」
(Darwin 1871)

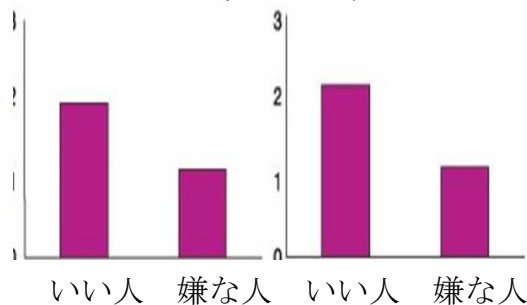
ダーウィンのこの主張は、
数百年の時をへて、今日の科学が立証

ヒトの心を探していたはずが、
動物に

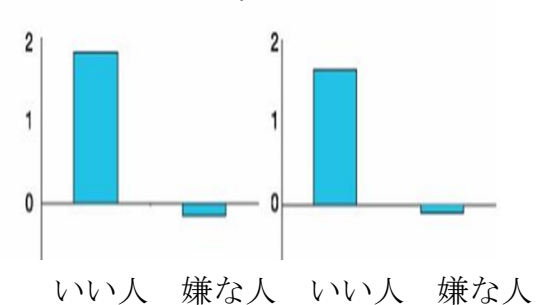
共感 (empathy)



共感の反応：女性



共感の反応：男性



(Singer et al. 2006) fig.2 より

「嫌な人」の痛み => 「共感」↓

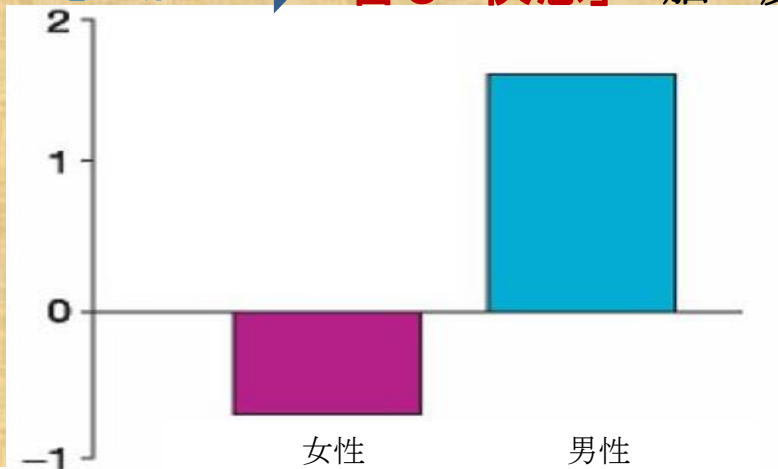
* 女性：統計的に有意でない

- 敵チームのファンの痛み → 共感↓ (Hein et al. 2010)
- 異なる人種の人々の痛み → 共感↓ (Xu et al. 2009)

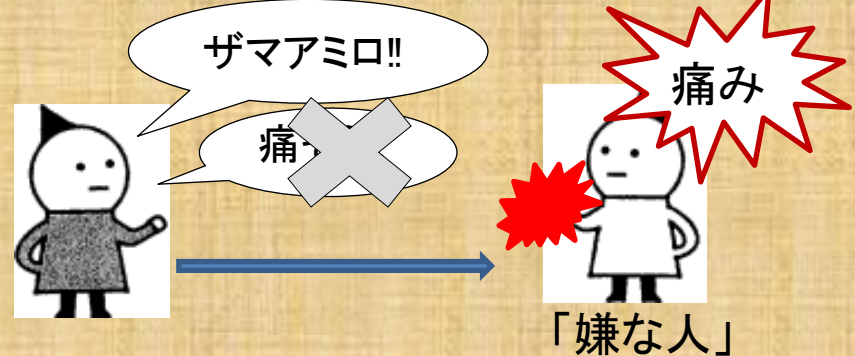
「嫌な奴」(・遠いヒト)には共感しない

罰する喜び

「嫌な人」の痛み → 「喜び・快感」の脳の反応 ● 報酬系(喜び・快感) 男性↑



Singer et al. 2006 fig.3より



● 敵チームのファンの痛み → 報酬系↑ (Hein et al. 2010)

● 妬ましい他者の不幸 → 報酬系↑ (Takahashi et al. 2009)

「異なる正義」

「世界中で戦争が終わらない訳がよくわかりました」 by ある学生さん

嫌な奴には共感しない
& その苦しみは「快感・喜び」

『進撃の巨人』
の世界の「敵」

「見えざる手」

集団でしか生きられないヒトが、
集団の中の「悪者」を排除する仕組み

「自分の正義感」だけで
他者にムチをふるえば？

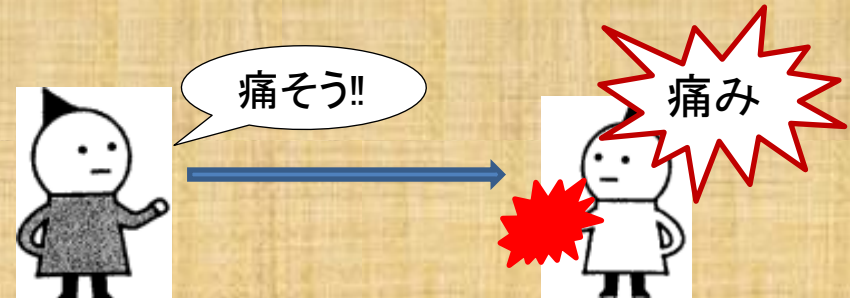
“悪い者”に罰: 「喜び・快感」

(de Quervain et al. 2004)

ネット
バッシング？

共感再考～広い？

共感の対象



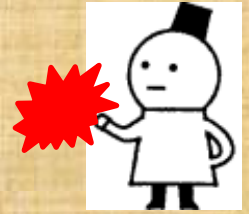
- ヒト → ヒト
- ヒト → **動物**: 動物の痛みへの共感(渡辺 2020)、
- ヒト → **モノ**: ものを破壊する・捨てる時の「痛み」(池谷 2012、Tolin et al. 2012)
- * ヒト → 仮想・空想上の存在への共感(実際は存在していないもの)
例: 小説・映画・漫画・アニメなどの登場人物への共感
- * 動物 → 動物の共感(サーベイ De Waal 2019)、サル(Masserman et al. 1964)、
ハト(Watanabe & Ono 1986)、ラット(Church 1959、Carrillo et al.)など
- * 動物 → ヒト

「他者の痛みを我が事
のように感じる心」

「美しき人の心？」

共感は、とても「広い」

⇒ 共感の対象は、「ヒト」だけではない



共感再考～狭い？

●「遠いヒト」には共感しない (Brown 1991、Bloom 2016)

例：他チームのファン、嫌いな人間 (Singer et al. 2006、Stellar et al. 2014)、
地球の反対側にいる人、他民族、他言語を話す人、などなどなど……

●「近いヒト」は助ける義務がある (Marshall et al. 2022)

=> 「遠いヒト」は助けなければと感じない

例：災害にあって困窮している人 (Green 2013)

「人助けをする道徳的義務がある」 その場に居る 68% > 遠く離れている 34%

●「遠いヒト」(例：嫌いなヒト、妬ましいヒトなど)の痛みは喜び

(Singer et al. 2006、Xu et al. 2009、Hein et al. 2010、Takahashi et al. 2009)

●嫌な奴の不運に「微笑む」(Cikara & Fiske 2012)

* ただし、自己申告は「気の毒に思う」

●「脱人間化(dehumanization)」

・「遠いヒト」：人というより「事物」(脳の反応) (Mitchell et al. 2006)

・極端に「遠いヒト」 => 「不快なモノ」

例：ホームレス、麻薬中毒患者など (Harris & Fiske 2006)

●遠隔操作だと虫を簡単に殺せる (Rutchick et al. 2017)

自然選択の観点からは、我々は、
近くに生活している人々に向けて
調整されていれば十分 (by Cartritht)

「近いヒト(仲間)」ばかり大切にする

共感の
スポットライト効果

『反共感論』by ブルーム

共感は、とても「狭い」

=> 「ヒト」なら必ず共感されるわけではない(「近い人」)

進化の中で組み込まれた力

一人の人の中に、「善」と「悪」

震えるほど「美しい」振る舞い（「善」？）

- ・見知らぬ人の痛みや苦しみ => 「我が痛み」
- ・モノが捨てられる => 「我が痛み」
- ・（目の前の）見知らぬ人 => 「犠牲を払ってでも助ける義務」
- ・他者を傷つくぐらいならば、「食事をとらない」

仲間（≡近いヒト）を
犠牲を払ってでも助ける心



身震いするほど醜悪な振る舞い（「悪」？）

- ・「遠いヒト」の痛み => 「喜び・快感」（≡ザマアミロ！）
- ・「極端に遠いヒト」 ≡ 「不快なモノ」
- ・「遠い存在」 => 「命を奪うことが簡単」



仲間でないヒト（≡遠いヒト）
の犠牲を厭わない心

- × 「善」や「悪」が組み込まれている（性善説・性悪説）
=> 「善」や「悪」は後付け（立場や視点が変われば逆転する可能性）
- × 単純な「エコン」（自己利益の最大化（伝統的経済学の前提））

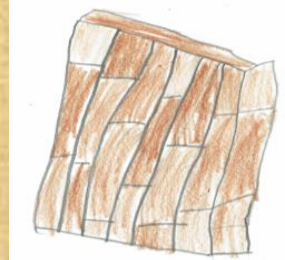
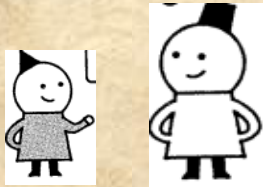
何が何でも生き延びてやる!!

○ 生き延びて遺伝子を残す => 生物としての「生きる力」

ヒトに組み込まれた認知と課題

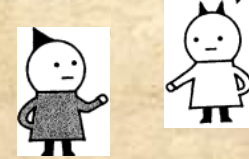
「私たち」

(≡「近いヒト(仲間)」)



「彼ら」

(≡「遠いヒト(あいつら)」)



「壁」

「人はあまりにも多くの壁を造るが
架け橋の数は十分ではない」

By ニュートン

地球の反対側にいるヒト、違う言語を話すヒト、違う民族のヒト、将来のヒト etc.

どうやったら架け橋がかけられるのか？

「地球規模のさまざまな課題」 → 「遠いヒト」たちとも協力する必要

- どうやって「遠いヒトたち」とも協力し合うか？
- 「遠いヒト」たちも含めて、みなで幸せになるための社会の仕組みとは？



(進化の中で獲得した)ヒトの持つこうした「力」について、正しく理解することは、その前提として重要なのではないか？

文理を超えた学問の連携

「心の性質を理解することは、社会制度と社会科学、経済学や政治学における、活気に満ちた理論の構築に欠かせないものである。経済学は、人間の理性についての『アприオリな』仮定のもとで、二世紀にもわたって問題をごまかしてきた。しかし、そういう仮定はもはや実のあるものではない。そうした仮定は、人間の心についてのもっと真実性のある理論にとって代わられなければならないのである。」

by ハーバート・サイモン (1996)

(1978年 ノーベル経済学賞受賞)

学問の世界の端っこにいる人間の一人として、
できることを少しずつやっていきたい

心理学・人類学・生物学・医学・認知科学・工学・哲学・経済学 etc.

文系も理系も乗り越えた、多様な分野の研究者が協力し、
「ヒト」という生き物の謎を探り、それを前提とした社会の
仕組みづくりが必要

経済学の人間ですが、他分野の知恵をお借りしつつ、「ヒトの意思決定の謎」を探り、

「『皆』が幸せに生きていける社会の仕組み」を考える

ご清聴ありがとうございました

スライドで使用した人物のイラストは、『最後通牒ゲームの謎:進化心理学からみた行動ゲーム理論』(日本評論社)より許可を得て使用させていただいております。

